

令和元年度
千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

横田郷遺跡
寒沢遺跡第9次調査
寺野台遺跡第8次調査
大塚台遺跡第4次調査・雲塚台古墳群第2次調査

令和2年3月
袖ヶ浦市教育委員会

令和元年度

千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

よこたごう
横田郷遺跡

かんざわ
寒沢遺跡第9次調査

てらのだい
寺野台遺跡第8次調査

おおつかだい 大塚台遺跡第4次調査・くもつかだい 雲塚台古墳群第2次調査

令和2年3月

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、房総半島中央部の東京湾沿岸部に位置し、小櫃川によって形成された平野部の田園地帯や下総台地の南端に位置する北部の住宅、沿岸部の工業地帯から形成されています。特に沿岸部地域は宅地開発が進んでおり、他市からの移住者の増加に伴い、さらなる開発が見込まれております。

開発事業は埋蔵文化財と密接な関係があり、開発で市街地が日々変貌していくなかで、先人が築きあげた埋蔵文化財を、保存と活用をしていく責務が私たちにはあります。

袖ヶ浦市では昭和63年度から、各種の開発事業の実施に先立ち、国及び県の補助を受けて市内に所在する遺跡の発掘調査を行ない、失われる遺跡は発掘調査報告書に残すことで記録保存し、後世に伝えています。

これらの発掘調査成果を取りまとめた報告書を、多くの市民の皆様にしっていただき埋蔵文化財保護への理解と、郷土の歴史について関心を寄せていただければと思います。

最後になりましたが、発掘調査の実施から発掘調査報告書の刊行に至るまで御指導・御協力をいただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課をはじめ、土地所有者及び関係者の皆様には、御理解と御協力をいただきましたことに心から厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 御園 朋夫

例 言

1. 本書は、令和元年度に発掘作業を実施した横田郷遺跡、寒沢遺跡第9次調査、寺野台遺跡第8次調査、大塚台遺跡第4次調査・雲塚台古墳群第2次調査を収録した令和元年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導を受け、発掘及び整理事業、報告書刊行までの業務を袖ヶ浦市教育委員会が実施した。

3. 発掘及び整理事業期間は下記のとおりである。

横田郷遺跡

発掘：令和元年5月20日～同年5月29日

整理：令和元年10月1日～令和2年2月21日

寒沢遺跡第9次調査

発掘：令和元年6月11日～同年6月26日

整理：令和元年10月1日～令和2年2月27日

寺野台遺跡第8次調査

発掘：令和元年7月16日～同年7月26日

整理：令和元年11月20日～令和2年3月3日

大塚台遺跡第4次調査・雲塚台古墳群第2次調査

発掘：令和2年1月16日～同年2月4日

整理：令和2年2月17日～同年3月17日

4. 各遺跡の所在地は、下記のとおりである。

横田郷遺跡

袖ヶ浦市横田字榎戸2,596番地他

寒沢遺跡第9次調査

袖ヶ浦市神納字寒沢4,182番地10他

寺野台遺跡第8次調査

袖ヶ浦市川原井字寺地629番地2の4他

大塚台遺跡第4次調査・雲塚台古墳群第2次調査

袖ヶ浦市岩井字西大塚台1,183番地1の2他

5. 各遺跡の発掘及び整理事業の担当者は、下記のとおりである。

横田郷遺跡

発掘：鎌田望里・簗島正広・助川 諒

整理：助川 諒

寒沢遺跡第9次調査

発掘：鎌田望里・簗島正広・助川 諒

整理：助川 諒

寺野台遺跡第8次調査

発掘：鎌田望里・助川 諒

整理：助川 諒

大塚台遺跡第4次調査・雲塚台古墳群第2次調査

発掘：大河原 務

整理：大河原 務

6. 本書で使⽤した地形図は、下記のとおりである。

第1図	国土地理院発行	1/25,000 地形図	「奈良輪」「姉崎」「木更津」「上総横田」
第2図	国土地理院発行	1/25,000 地形図	「上総横田」
第3図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 36」
第5図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 13」
第8図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 29」
第11図	国土地理院発行	1/25,000 地形図	「姉崎」「上総横田」
第12図	袖ヶ浦市発行	1/2,500 地形図	「No. 26」「No. 27」

7. 本書で使⽤したトレンチ名や遺構名は、基本的に発掘時のものを使⽤した。

8. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管している。

9. 遺跡のコードは、横田郷遺跡（S G 092）、寒沢遺跡（S G 061）、寺野台遺跡（S G 098）、大塚台遺跡（S G 076）、雲塚台古墳群（S G 130）である。各遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示した。（第9次調査 → （9））

10. 挿図内の「K」は攪乱を表す。

11. 縄文土器実測図中の断面に付したドット「■」は胎土に繊維を含むことを表す。

12. 発掘作業から報告書刊行に至るまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々から御指導・御協力を頂いた。また、現地での作業においては調査区の土地所有者各位の御協力をいただいた。記して謝意を表したい。

目 次

序文	
例言	
序章 調査概要	1
1. 調査に至る経緯	
2. 調査経過	
3. 調査組織	
第2章 横田郷遺跡	3
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	
第3章 寒沢遺跡（9）	7
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	
第4章 寺野台遺跡（8）	11
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	
第5章 大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）	15
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	

挿 図 目 次

第1図	調査遺跡位置図
第2図	横田郷遺跡全体図
第3図	横田郷遺跡調査区位置図
第4図	横田郷遺跡遺構確認状況図、土層断面図
第5図	寒沢遺跡調査区位置図
第6図	寒沢遺跡（9）遺構確認状況図、土層断面図
第7図	寒沢遺跡（9）出土遺物実測図
第8図	寺野台遺跡調査区位置図
第9図	寺野台遺跡（8）遺構確認状況図、土層断面図
第10図	寺野台遺跡（8）出土遺物実測図
第11図	大塚台遺跡・雲塚台古墳群周辺遺跡位置図
第12図	大塚台遺跡・雲塚台古墳群調査区位置図
第13図	大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）遺構確認状況図、土層断面図
第14図	大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）出土遺物実測図

表 目 次

第1表	寒沢遺跡（9）出土遺物観察表
第2表	寺野台遺跡（8）出土遺物観察表
第3表	大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）出土遺物重量表

図 版 目 次

図版1	横田郷遺跡
図版2	寒沢遺跡（9）
図版3	寺野台遺跡（8）①
図版4	寺野台遺跡（8）②
図版5	大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）①
図版6	大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）②

序章 調査概要

1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市教育委員会では、市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地内において計画される中小企業等の開発行為に際して、遺跡の実態を把握するための確認調査や、墓地造成等に際して、本調査を実施するため、国及び県の補助を受けて、市内遺跡の発掘調査事業を実施している。

令和元年度は、次の4件についての発掘調査を実施した。

- 1 横田郷遺跡（確認調査）……………宅地造成
- 2 寒沢遺跡（9）（確認調査）……………宅地造成
- 3 寺野台遺跡（8）（確認調査）……………墓地造成
- 4 大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）（確認調査）……………太陽光パネル設置

2. 調査経過

横田郷遺跡

5月20日：環境整備、写真撮影、21日：仮設トイレ設置、22日：重機搬入、重機によるトレンチ掘削・埋戻し、トレンチ精査、平面図・断面図作成、写真撮影、23日：重機によるトレンチ掘削・埋戻し、トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、24日：重機によるトレンチ掘削・埋戻し、トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、27日：重機によるトレンチ掘削・埋戻し、トレンチ精査、平面図・断面図作成、写真撮影、重機搬出、28日：雨天中止、29日：仮設トイレ撤去、環境整備、写真撮影

寒沢遺跡（9）

6月11日：環境整備、写真撮影、12日：重機搬入、重機によるトレンチ掘削、トレンチ精査、写真撮影、13日：重機によるトレンチ掘削、トレンチ精査、写真撮影、14日：重機によるトレンチ掘削、トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、17日：重機によるトレンチ掘削・埋戻し、トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、18日：重機によるトレンチ掘削・埋戻し、トレンチ精査、平面図・断面図作成、写真撮影、19日：トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、20日：重機によるトレンチ掘削・埋戻し、トレンチ精査、平面図作成、写真撮影、21日：重機による埋戻し、トレンチ精査、平面図・断面図作成・写真撮影、24日：雨天中止、25日：重機による埋戻し、トレンチ精査、平面図・断面図作成、写真撮影、26日：重機による埋戻し、重機搬出、環境整備、写真撮影

寺野台遺跡（8）

7月16日：環境整備、17日：仮設トイレ設置、重機搬入、重機によるトレンチ掘削、トレンチ精査、写真撮影、重機搬出、18日：基準点測量、トレンチ精査、写真撮影、19日：雨天中止、22日：トレンチ精査、写真撮影、23日：トレンチ精査、断面図作成、写真撮影、24日：トレンチ精査、断面図作成、写真撮影、25日：平面図作成、26日：仮設トイレ撤去、環境整備、写真撮影

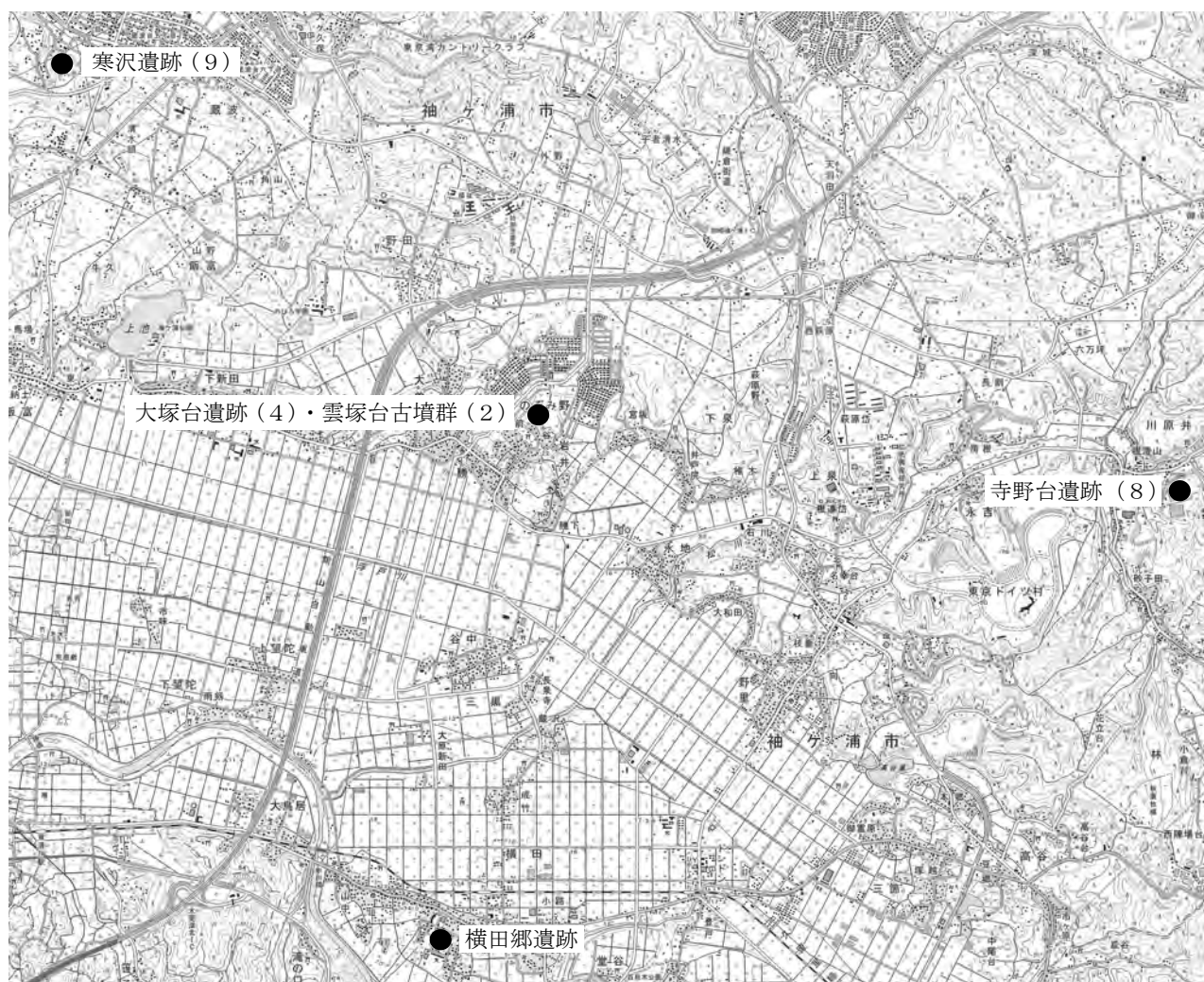
大塚台遺跡（４）・雲塚台古墳群（２）

1月16日：環境整備、仮設トイレ設置、重機搬入、重機によるトレンチ掘削、17日：重機によるトレンチ掘削、20日：雨天中止、21日：基準点測量、トレンチ精査、写真撮影、22日：トレンチ精査、写真撮影、23日：雨天中止、24日：トレンチ精査、写真撮影、断面図作成、27日：平面・断面図作成、写真撮影、環境整備、28日～2月3日：現場中止、4日：重機による埋戻し、重機搬出、仮設トイレ撤去、環境整備、写真撮影

3. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

教 育 長	御園 朋夫	教 育 部 長	石井 俊一
教育部次長	末吉 幸夫	教育部参事兼生涯学習課長	小阪 潤一郎
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主 査	田中 大介
副主査	簗島 正広	副主査	光江 章
副主査	大河原 務	学芸員	鎌田 望里
学芸員	助川 諒		



第1図 調査遺跡位置図 (1:50,000)

第2章 横田郷遺跡

1. 周辺の遺跡と環境（第2図）

横田郷遺跡は、小櫃川中流域北岸の標高10～15m程の自然堤防上に位置する。遺跡周辺の小櫃川中流域北側は沖積平野を形成している。

本遺跡では、これまでに幾度にわたる調査が行われており、そのなかでも平成17年度から平成20年度までに行われた調査では、竪穴住居162軒、掘立柱建物10棟、方形周溝墓22基、古墳10基、井戸7基が検出されている。出土遺物に関しては、弥生時代から中世に至るまでの遺物が出土している。

周辺の遺跡として、小櫃川流域南岸に椿古墳群・滝ノ口向台遺跡・大竹遺跡群・笹子城跡などの弥生時代から中世にかけての遺跡が分布し、当時の生活環境などの比較検討を行う上で重要な遺跡群が存在している。

2. 調査と遺跡の概要（第3・4図、図版1）

調査方法

宅地造成に伴い、1,021㎡を対象として確認調査を実施した。調査区に2m×5mを基本としたトレンチ10本を東西方向に設定した。重機によりトレンチ掘削を行い、人力により遺構確認作業を行った。

調査の概要

本調査区は、横田郷遺跡の南部標高約14mに所在する。対象地の大部分は荒蕪地であり、一部は畑として利用されている。トレンチの土層堆積状況は、現表土面から約1m盛土されていることが全トレンチで確認でき、調査区東側では表土から1.3m程で青灰色シルト層に至る。調査区西側に向かって傾斜し、調査区の西側では、2.0mで青灰色シルト層に至る。トレンチ内からは、遺構は検出されなかった。

出土遺物

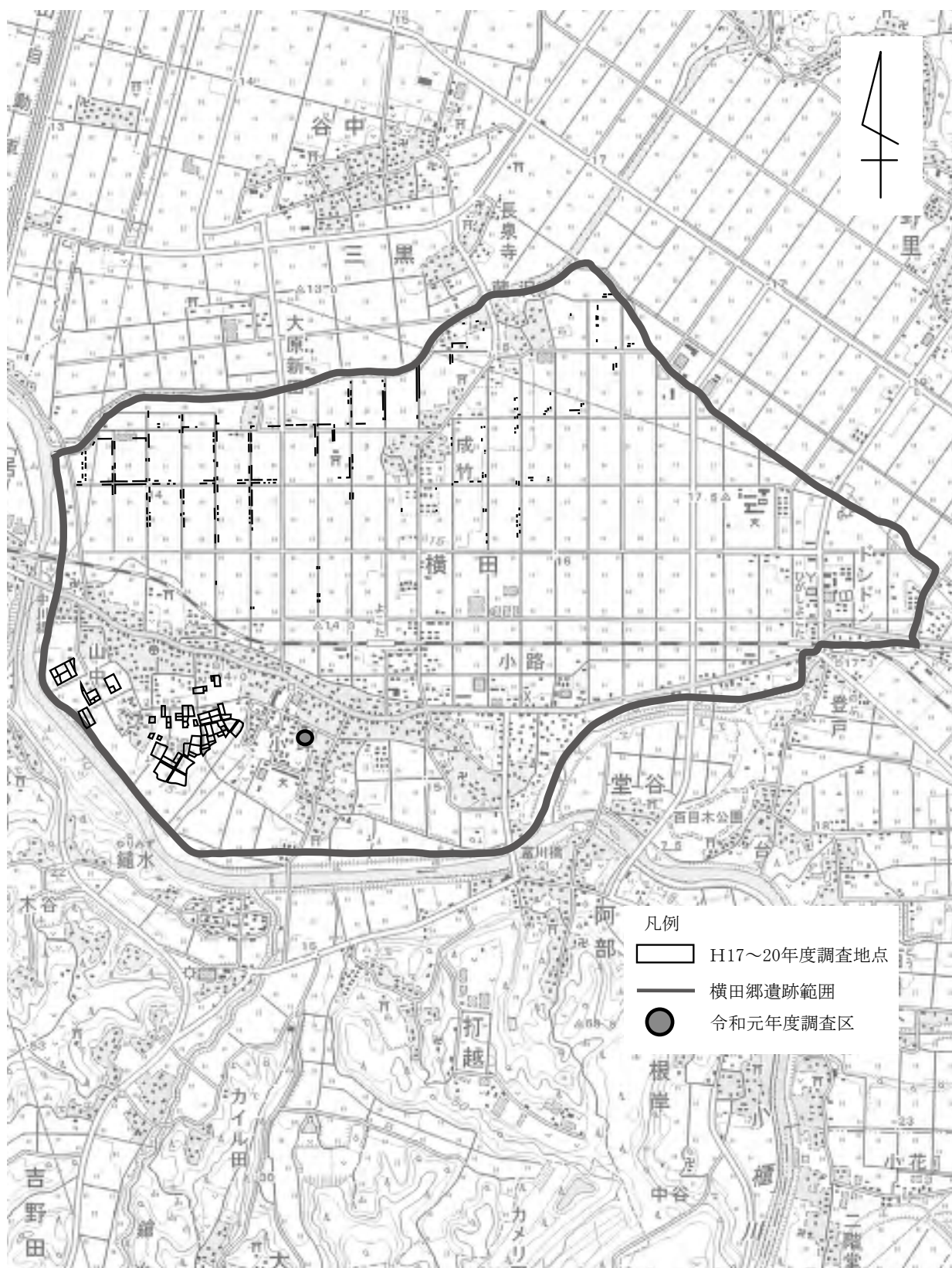
調査区からは、古墳時代土師器28点・165.99g、古墳時代須恵器2点・34.32g、中世陶器4点・60.71g、近世磁器8点・135.74g、近世陶器2点・60.71gが出土した。古墳時代土師器・須恵器に関しては、西側に傾斜している、6層：青灰色シルト層より出土し、中世・近世の磁器や陶器は、5層：黒灰色シルト層から出土した。いずれも細片であった。

3. まとめ

今回の調査では、古墳時代の遺物は出土したものの、遺構の検出はされなかった。過去の調査で古墳時代の竪穴住居などの遺構が多く検出され、集落域と考えられている調査区西側の隣接地に本調査区も位置することから、出土遺物より、古墳時代から本調査区においても集落を形成していたことが考えられる。

参考文献

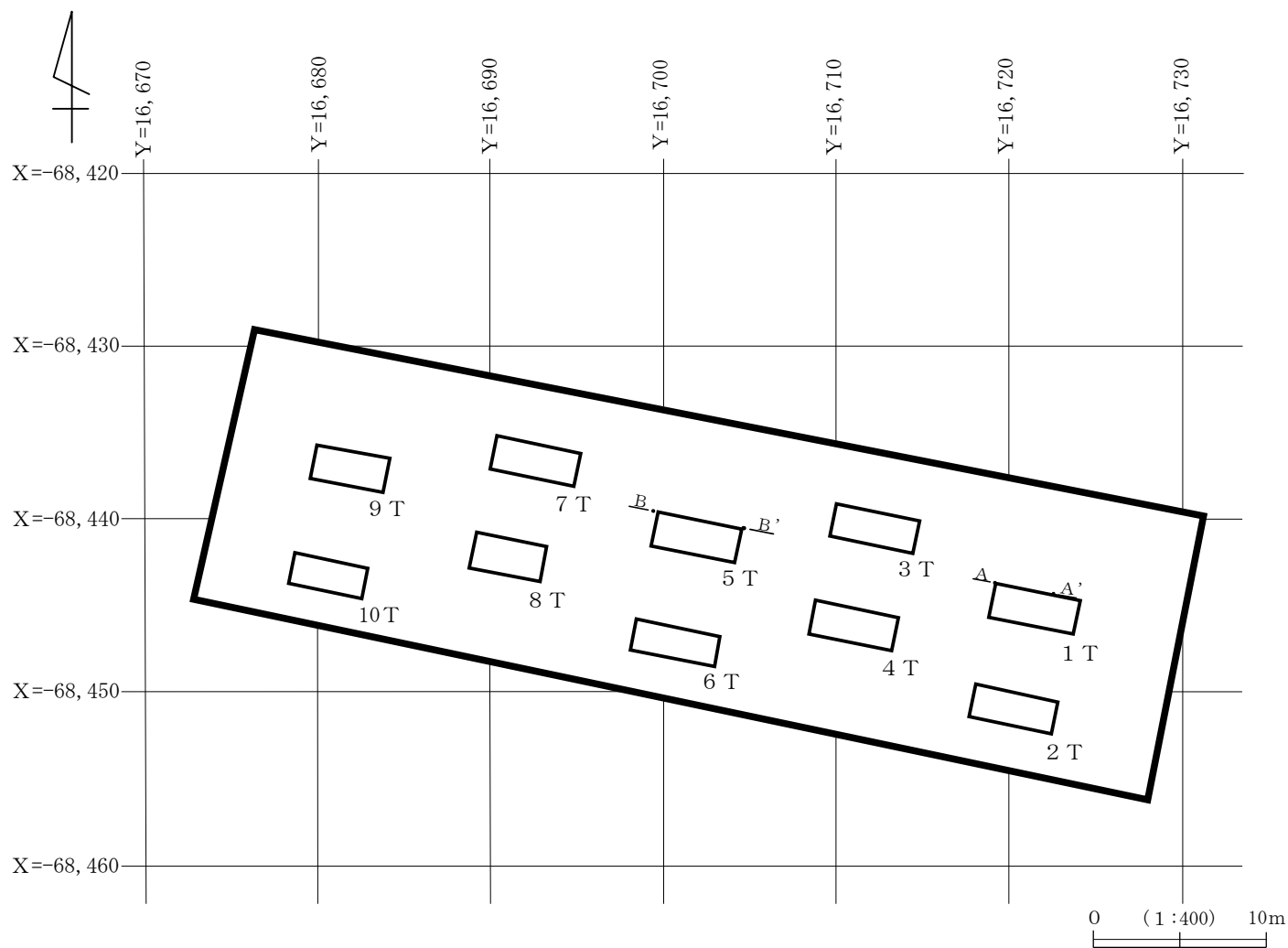
桐村久美子 2012『横田郷遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会



第2図 横田郷遺跡全体図 (1 : 20,000)

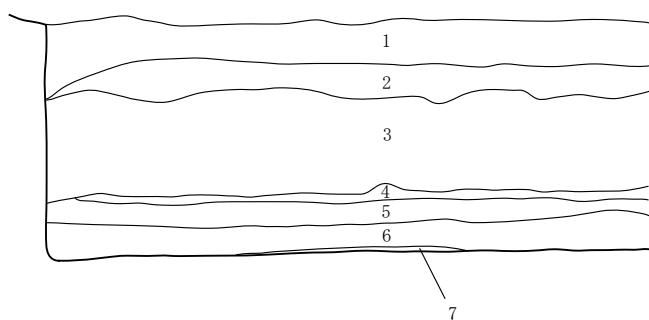


第3図 横田郷遺跡調査区位置図 (1 : 2,500)



1 T
14.6m A

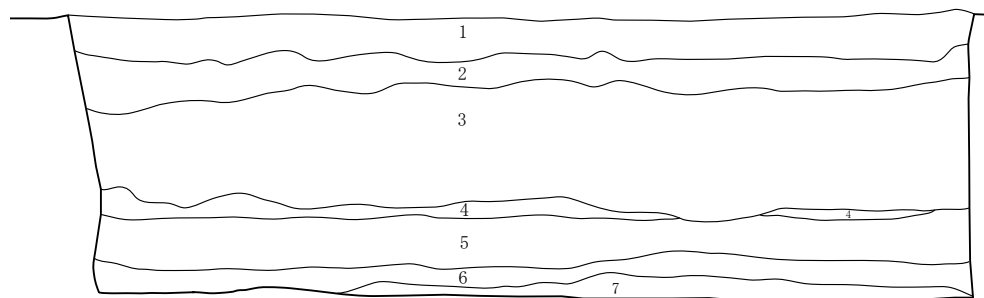
A'



- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 表土層 | 畑耕作土 |
| 2. 表土層 | しまりなし |
| 3. 客土層 | 淡褐色土層 |
| 4. 黄灰色土シルト層 | 砂質混じりのシルト層 |
| 5. 黒灰色土シルト層 | 稲根痕あり |
| 6. 青灰色シルト層 | しまりある砂質混じりのシルト層 |
| 7. 黄灰色シルト層 | しまりある砂質混じりのシルト層 |

5 T
14.6m B

B'



0 (1:40) 1 m

第4図 横田郷遺跡遺構確認状況図、土層断面図

第3章 寒沢遺跡（9）

1. 周辺の遺跡と環境（第5図）

寒沢遺跡は袖ヶ浦台地の西端に位置し、北側を蔵波川に、南側を奈良輪境川に挟まれた標高約 35 m の台地上に展開する。宅地造成に伴い継続的に調査が実施されており、今回は第 9 次調査にあたる。

本遺跡は、縄文時代～奈良・平安時代に至る各時代の遺構・遺物が検出されている。特に縄文時代早期の遺構・遺物が主体となっており、遺跡の北西側の台地縁辺部を中心に縄文時代早期の炉穴や土坑が多数検出されている。

周辺遺跡では、本遺跡の西側に所在する大窪遺跡においても縄文時代早期の炉穴が確認され、また本遺跡の東側に所在する中六遺跡でも縄文時代早期の炉穴 200 基以上が検出し、子母口式期の貝層も検出された。

寒沢遺跡は、縄文時代早・前期の遺構・遺物が検出されており、特に台地の北西縁辺部を対象とした第 7・8 次調査では、334 基の鶴ヶ島台から茅山下層式時期を主体とする炉穴がいくつかの群をなして確認され、その中の 7 基の炉穴からは同時期の貝層も検出されている。

2. 調査と遺跡の概要（第 6・7 図、第 1 表、図版 2）

調査方法

宅地造成に伴い、5,072.91 m²を調査対象として確認調査を実施した。調査区に 2 m×5 m を基本としたトレンチ 49 本を東西方向に均等に設定し、重機によりトレンチ内を掘削し、人力により遺構確認作業を行った。調査区の大部分がソフトローム層まで攪乱を受けていたため、どの層まで攪乱の影響を受けているのかを確認するために人力による深堀を行った。

調査の概要

本調査区は遺跡の北西端に位置し、北に向かって傾斜した地形を呈する。全体的に樹木の抜根等の影響による攪乱を受けていた。土層の堆積状況は、遺構確認面までの深度は調査区北側で 2 m を測る。深堀を行った結果、Ⅳ層（ハードローム層）まで削平されていることが確認された。8 T では、攪乱層より焼土の塊が検出された。

また、調査区中央やや南側の 48 T では、攪乱の影響を受けていないⅢ層（ソフトローム層）の一部が検出された。

攪乱を受けていた影響もあり、遺構は検出されなかった。

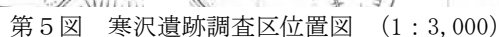
出土遺物

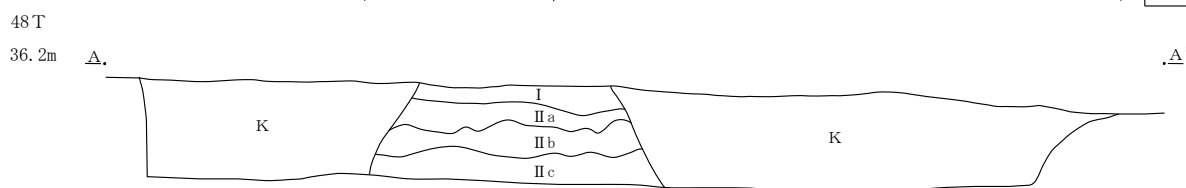
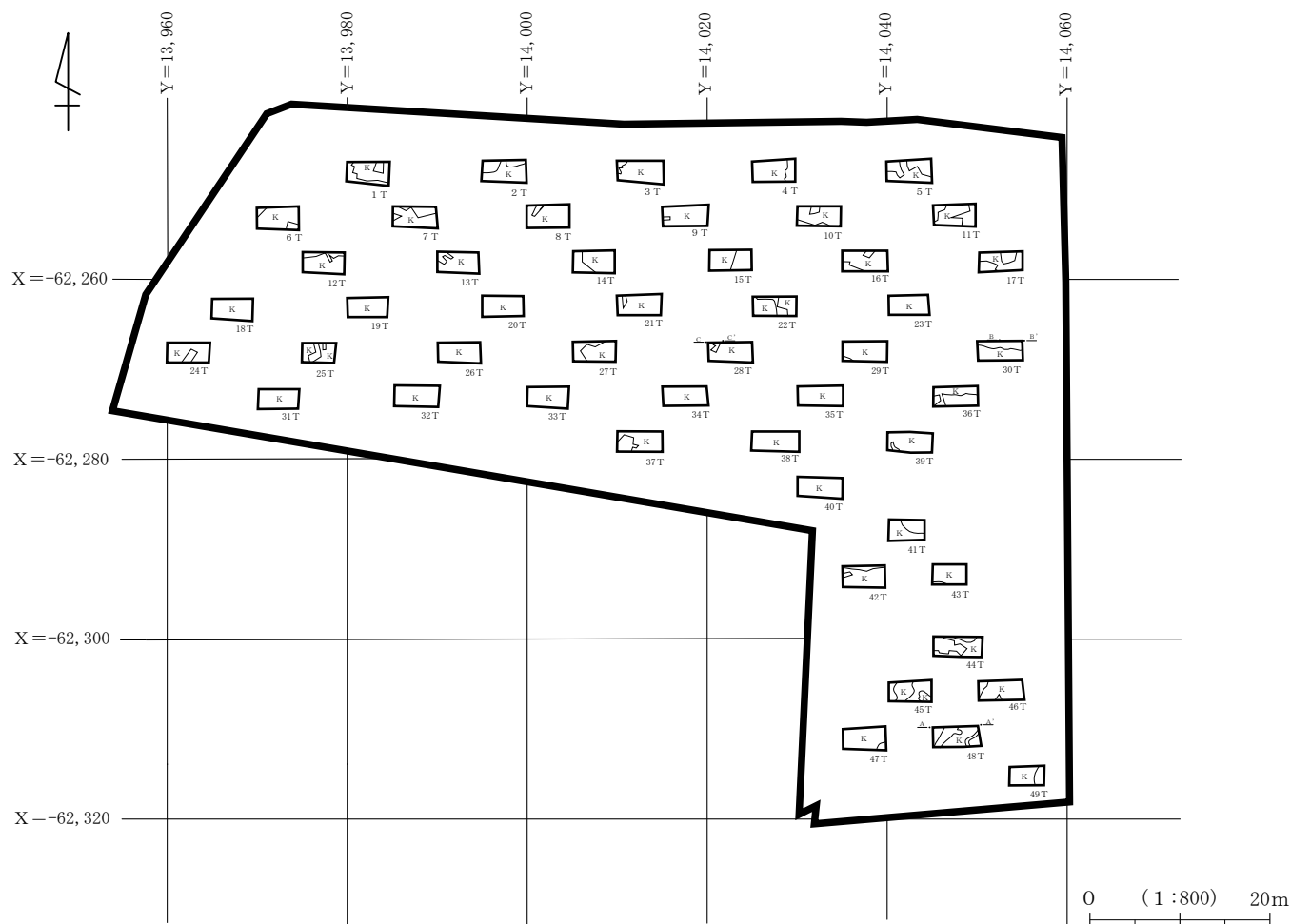
調査区内からの出土遺物は、縄文土器 40 点・511.51g、古墳時代土師器 2 点・5.85g、中世陶器 1 点・25.50g、礫 19 点・76.03g が出土した。

時期・型式がわかる縄文土器の内訳は早期中葉から後葉の縄文 1 点・繊維入無文 3 点、早期後葉の条痕文 1 点・前期後半の半截竹管で施文した爪形文 4 点である。

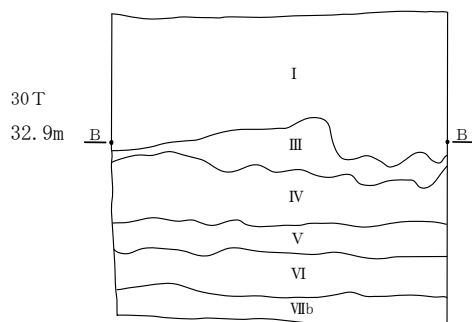
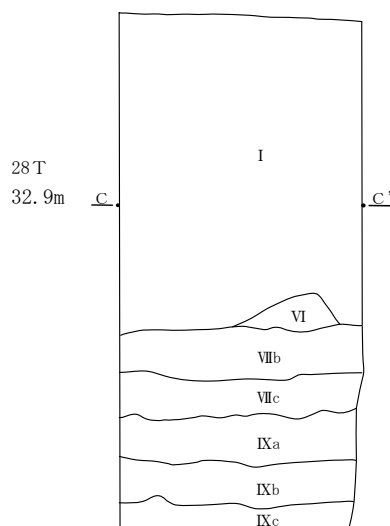
今回の調査では、調査区南側を中心に縄文時代早・前期の遺物が出土したが、攪乱の影響により遺構の検出が無かった。しかし、8 Tにおいて、攪乱から焼土の塊が検出された。焼土塊が検出された攪乱から、出土した遺物も縄文時代早期であることや、第7次・8次調査区の北西側に同時期の遺構が密に広がっていることから、本調査区の台地縁辺部においても同様に、縄文時代の遺構が存在していた可能性が考えられる。

高野浩之・田中大介 2014『寒沢遺跡第7・8次発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会



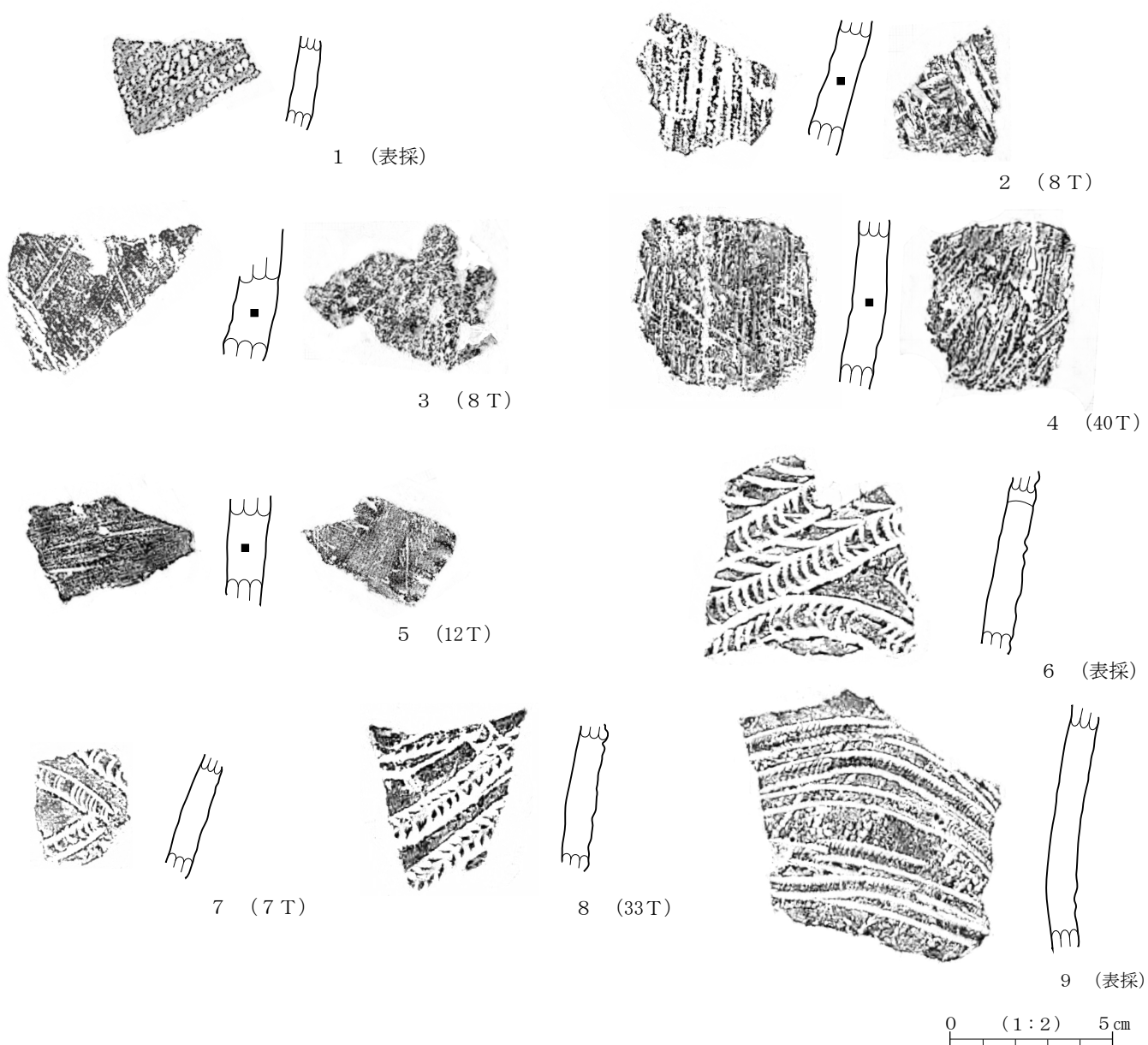


0 (1:40) 1 m



- I. 表土層
- II a. 黒褐色土層 黒色粒子を多く含む
- II b. 暗褐色土層 黒色粒子を含む
- II c. 淡褐色土層 ローム粒子を多く含む
- III. 暗黄褐色土層 ソフトローム
- IV. 黄褐色土層 ハードローム
- V. 暗褐色土層 第一黒色帯 黒色粒子・橙色スコリアを微量に含む
- VI. 明黄褐色土層 AI層・ガラス質の粒子混じる・橙色スコリア微量に含む
- VII b. 黄褐色土層 第二黒色帯 橙色スコリア多量含む
- VII c. 暗黄褐色土層 第二黒色帯下部 黒色・橙色スコリア多量に含む
- IX a. 淡黄褐色土層 白色粒子を少量含む IX層中で最も硬質で明るい土層
- IX b. 褐黄色土層 白色粒子を微量に含む 小礫を微量含む
- IX c. にぶい黄褐色土層 白色粒子極微量に含む IX層中で、最も暗い土層

第6図 寒沢遺跡（9）遺構確認状況図、土層断面図



第7図 寒沢遺跡（9）出土遺物実測図

第1表 寒沢遺跡（9）出土遺物観察表

番号	色調	胎土	時期	文様
1	黒褐色	砂(白少)	縄文時代早期	縄文(L R)
2	暗褐色	砂(白少) 繊維含む	縄文時代早期	表裏に条痕文
3	赤褐色	砂(白多) 繊維含む	縄文時代早期	表裏に擦痕
4	赤褐色	砂(白少) 繊維含む	縄文時代早期	表裏に擦痕
5	黄褐色	砂(白少) 繊維含む	縄文時代早期	表裏に擦痕
6	暗褐色	砂(透少)	縄文時代前期	半截竹管の斜位爪形文 焼成前の穿孔
7	暗褐色	礫(黒少)砂(白少)	縄文時代前期	半截竹管の斜位爪形文
8	褐色	礫(白少)砂(白少)	縄文時代前期	半截竹管の斜位爪形文
9	暗褐色	礫(黒少)砂(白少)	縄文時代前期	弧状爪形文

第4章 寺野台遺跡（8）

1. 周辺の遺跡と環境（第8図）

寺野台遺跡は、小櫃川流域の右岸に流れる小櫃川支流の松川流域右岸の標高約 60 m の台地上に所在する。

周辺の遺跡をみると、東郷台遺跡、永吉台遺跡群、樋爪遺跡などの奈良・平安時代の遺跡が多く分布しており、これらの遺跡からは、寺院や土器生産に関連する遺構・遺物が検出されている。寺野台遺跡の調査は継続的に行われており、過去の調査では、奈良・平安時代の土器焼成の可能性のある遺構や大量の土師器が出土している。また、周辺の遺跡と同様に奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されており、なかでも墨書土器は、寺院に関係する遺跡であった可能性が考えられている。

2. 調査と遺跡の概要（第9・10図、第2表、図版3・4）

調査方法

墓地造成に伴い、調査対象範囲 594 m² の確認調査を実施した。調査区に 2 m × 5 m を基本としたトレンチを東西方向に 4 本、南北方向に 3 本設定した。トレンチ掘削は、重機により行い、遺構確認面以下の遺構確認作業は、人力で行った。

調査の概要

今回の調査区は、遺跡の中央部西側に位置しており、北側に向かって緩やかな傾斜がみられる。1 T では、奈良・平安時代の竪穴住居 1 軒、4 T では奈良・平安時代の溝状遺構が 1 条、5 T では奈良・平安時代の竪穴住居 2 軒と奈良・平安時代の土坑が 1 基、6 T では奈良・平安時代の竪穴住居が 2 軒と奈良・平安時代の土坑 1 基、7 T では奈良・平安時代の竪穴住居 1 軒と土坑 1 基、掘立柱建物が 1 棟が検出された。

出土遺物

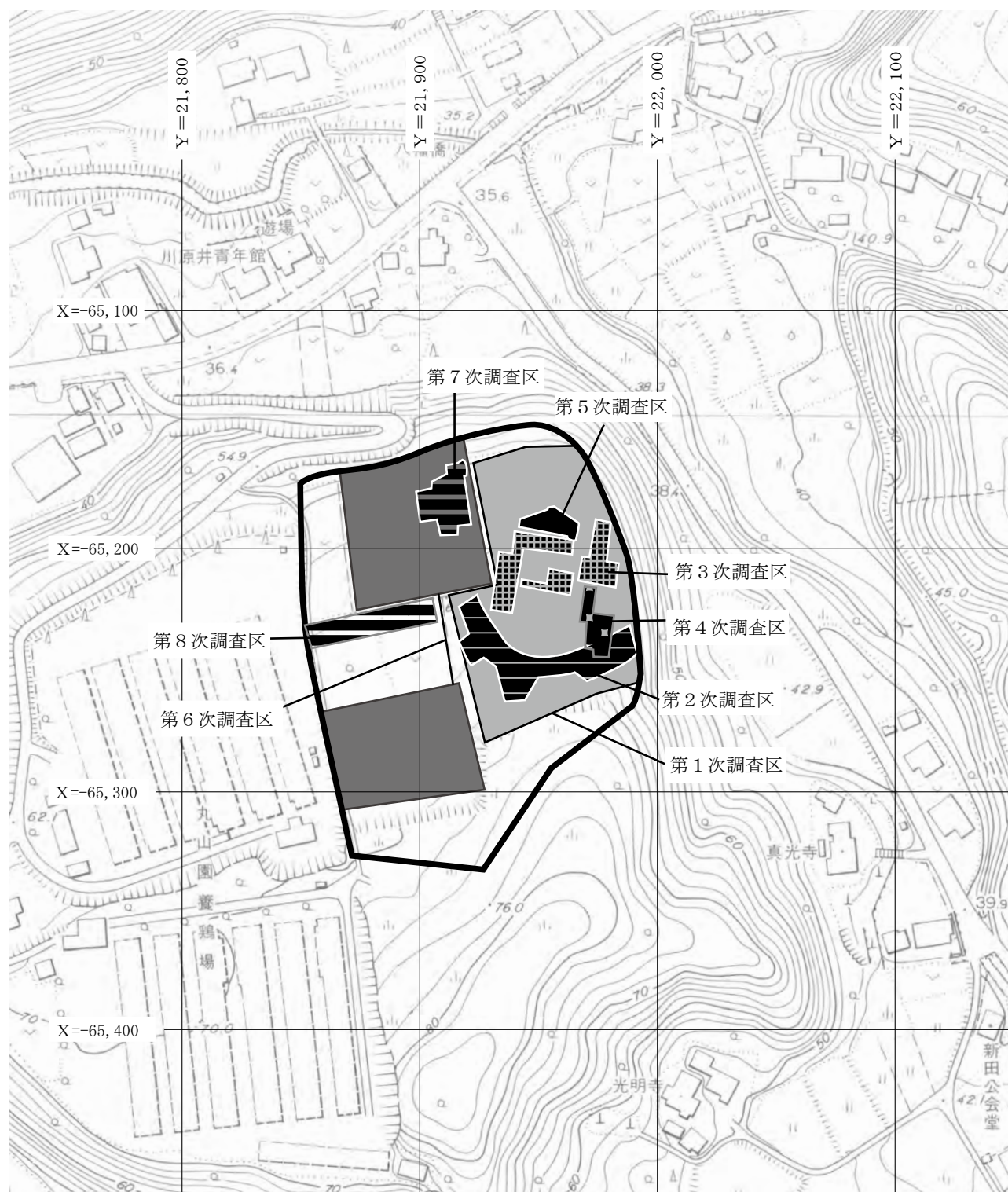
調査区内からの出土遺物は、奈良・平安時代土師器 3,916.95g、奈良・平安時代須恵器 38.32g、中世陶器 26.18g、礫 791.03g、鉄 7.46g、炭化物 12.36g が出土した。出土遺物は、奈良・平安時代土師器が多量であり、器種は、前回の調査と同様に、杯や甕などが多くを占めている。

3. まとめ

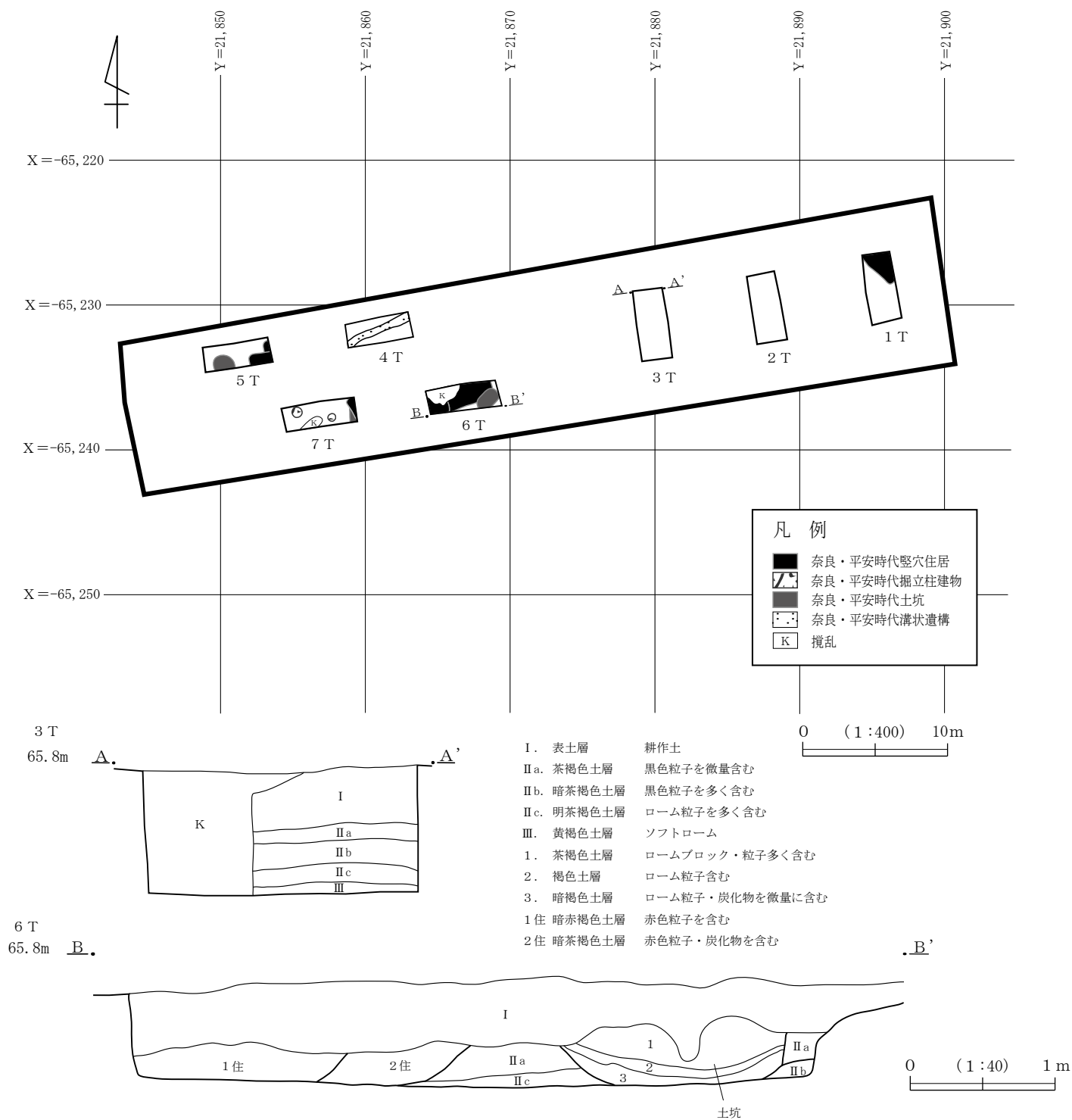
過去の第6次調査において、奈良・平安時代の竪穴住居が 45 軒が検出されており、本調査区においても奈良・平安時代の遺構・遺物が展開することが推定されていた。本調査区からは、奈良・平安時代の竪穴住居 6 軒と掘立柱建物 1 棟、溝状遺構 1 条や土坑 3 基が検出されたことや、本調査区からは、過去の調査で出土した同時期の土師器が多量に出土していることから、本調査区においても奈良・平安時代の集落が広がっていることが確認された。

参考文献

- 桐村久美子 2014『平成 25 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
大河原 務 2016『寺野台遺跡第 5・7 次発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会



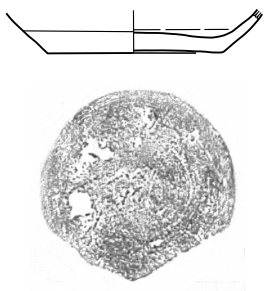
第8図 寺野台遺跡調査区位置図（1：2,500）



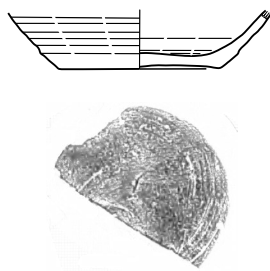
第9図 寺野台遺跡(8)遺構確認状況図、土層断面図

第2表 寺野台遺跡(8)出土遺物観察表

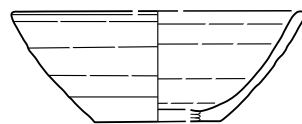
番号	材質	器種	計測値	遺存	色調	胎土	調整
1	土師器	杯	底径(7.05 cm) 器高(1.75 cm)	底部65%	褐色	砂(透少、白少)	ロクロ成形、外面下端ヘラケズリ後に底部回転ヘラケズリ
2	土師器	杯	底径(6.4 cm) 器高(2.3 cm)	底部50%	褐色	砂(白少)、礫(透少)	ロクロ成形、外面下端ヘラケズリ後に底部回転ヘラケズリ
3	土師器	杯	口径(11.6 cm) 器高(4.4 cm) 底径(5.0 cm)	口縁部8%	褐色	砂(灰少)、礫(透少)	ロクロ成形、外面下端ヘラケズリ後に底部回転ヘラケズリ
4	土師器	杯	口径(18.2 cm) 器高(7.0 cm) 底径(8.7 cm)	口縁部7%	褐色	砂(白少、透少)	ロクロ成形、外面下端ヘラケズリ後に底部回転ヘラケズリ
5	土師器	甕	口径(12.45 cm) 器高(6.2 cm)	口縁部10%	暗褐色	礫(黒少、透少)	外面ヘラケズリ、内面ナデ
6	土師器	甕	口径(16 cm) 器高(4.7 cm)	口縁部13%	褐色	砂(白少、透少)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ
7	土師器	甕	口径(22.4 cm) 器高(6.5 cm)	口縁部17%	暗褐色	礫(白少、灰少)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ
8	土師器	甕	口径(25.0 cm) 器高(2.6 cm)	口縁部6%	褐色	砂(白少、透少)	口縁部ナデ
9	土師器	甕	口径(23.0 cm) 器高(8.0 cm)	口縁部17%	暗褐色	砂(白少、黒少)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ
10	土師器	甕	口径(19.9 cm) 器高(14.8 cm)	口縁部11%	黄褐色	砂(黒少、白多)	外面ヘラケズリ、内面ナデ



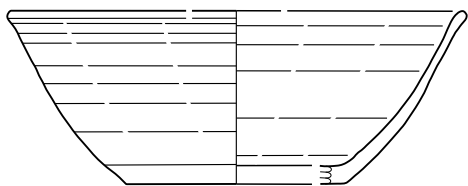
1 (6 T)



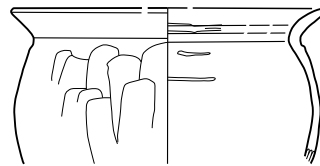
2 (6 T)



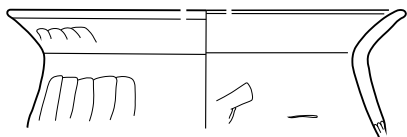
3 (6 T)



4 (6 T)



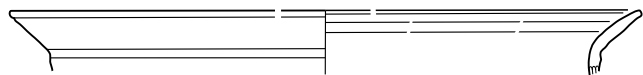
5 (6 T)



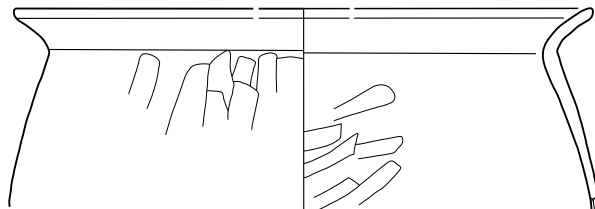
6 (6 T)



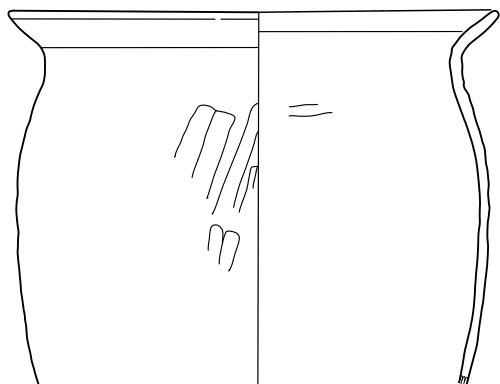
7 (6 T)



8 (6 T)



9 (6 T)



10 (6 T)

0 (1 : 3) 10cm

第 10 図 寺野台遺跡 (8) 出土遺物実測図

第5章 大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）

1. 周辺の遺跡と環境（第11・12図）

大塚台遺跡・雲塚台古墳群は、小櫃川下流域に流れる小櫃川の支流である松川流域右岸の標高約35mの台地上に所在する。本遺跡は平成7年から平成17年までに大塚台遺跡が3回、雲塚台古墳群が1回の確認調査・本調査が実施されている。遺跡北東部を調査した大塚台遺跡第1次調査では、古墳時代後期の竪穴住居1軒、掘立柱建物1棟が検出された。遺跡南西部を調査した大塚台遺跡第2次調査・雲塚台古墳群第1次調査では、古墳時代後期の雲塚台古墳群第2号墳の墳丘が検出され、墳丘盛土下から弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居4軒が検出された。遺跡中央部を調査した大塚台遺跡第3次調査では狭小な調査範囲内において、弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴住居26軒が検出され、重複が顕著に認められた。

本遺跡周辺は、弥生時代後期の竪穴住居33軒が検出された関畑遺跡、弥生時代後期の竪穴住居4軒、古墳時代前期の竪穴住居57軒、古墳約20基が検出された山王辺田遺跡、古墳時代前期の竪穴住居113軒が検出された台山遺跡、前方後円墳1基、円墳12基からなる大塚台古墳群、円墳10基からなる上泉古墳群などが立地しており、本遺跡が立地する台地上に、本遺跡と同時期の竪穴住居や古墳が密集していることがよくわかる。

2. 調査と遺跡の概要（第13・14図、第3表、図版5・6）

調査方法 確認調査は、太陽光パネル設置事業に伴い1,222.9㎡を調査対象として実施した。トレンチは1m×5mを基本に設定し、全部で18ヶ所設定した。また、古墳周溝が検出されたトレンチは必要に応じて延長した。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。

遺構・遺物 本調査範囲の基本層序は、Ⅰ層：表土（耕作土）（10～20cm）、Ⅱa～c層：耕作土（30～40cm）、Ⅲ層：ソフトローム層である。ソフトローム漸移層が検出されないこと、Ⅲ層直上に耕作土が堆積していることから、Ⅲ層より上層は削平されたものと推測される。

2・4・6・8トレンチからは調査区南東部に立地する雲塚台古墳群第2号墳の周溝1条が検出された。調査区内において古墳墳丘盛土は検出されなかったことから、少なくとも周溝幅は5m以上になるものと推測される。また、4トレンチからは周溝覆土堆積後に形成された竪穴住居1軒が検出された。遺構に伴う遺物は出土していないが、千葉県埋蔵文化財分布地図に記される大塚台遺跡の時期から平安時代のもものと推測する。1・3～5・7・9～18トレンチからは竪穴住居が計21軒検出された。9・16トレンチの竪穴住居からは炉と思われる焼土、18トレンチの竪穴住居からは柱穴と思われる直径約20cmのピットが検出された。3・13・16トレンチの竪穴住居は出土遺物から弥生時代後期、9トレンチの竪穴住居はカマドの痕跡と思われる粘土が検出されたことから古墳時代後半のもものと推測する。これら以外の竪穴住居は弥生時代後期から古墳時代後期のものと推測するが、形状や出土遺物から弥生時代後期から古墳時代前期のものが大半を占めるものと思われる。

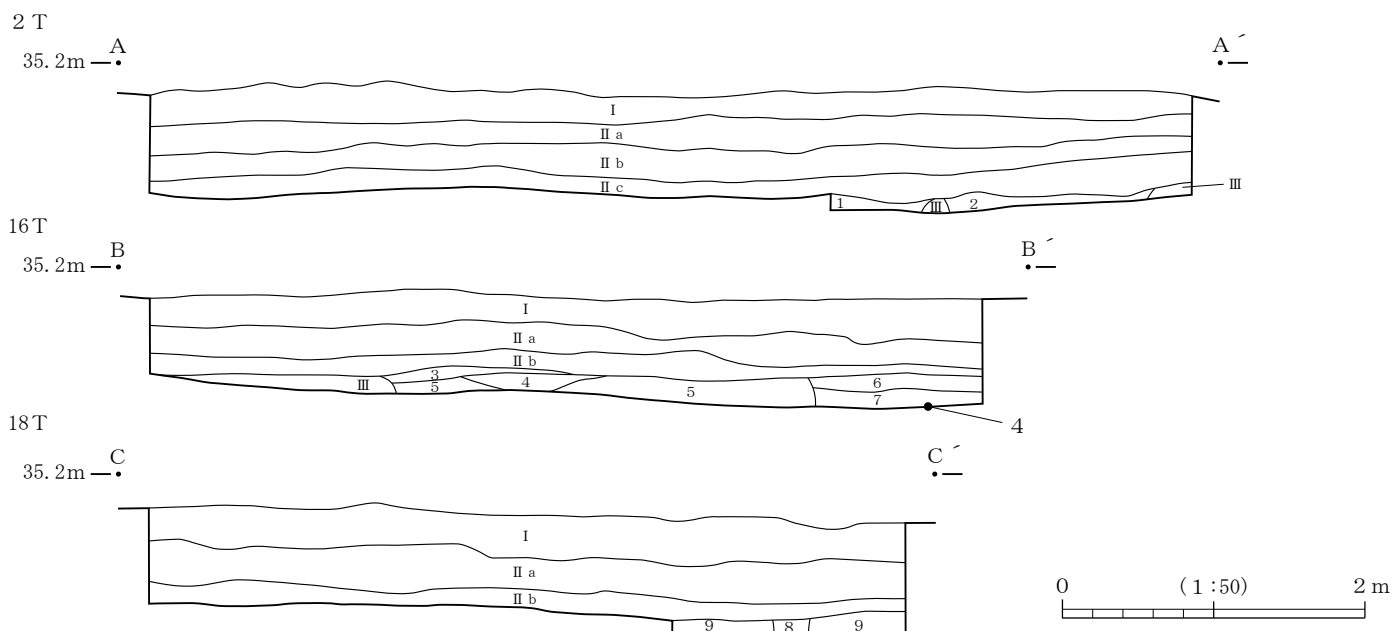
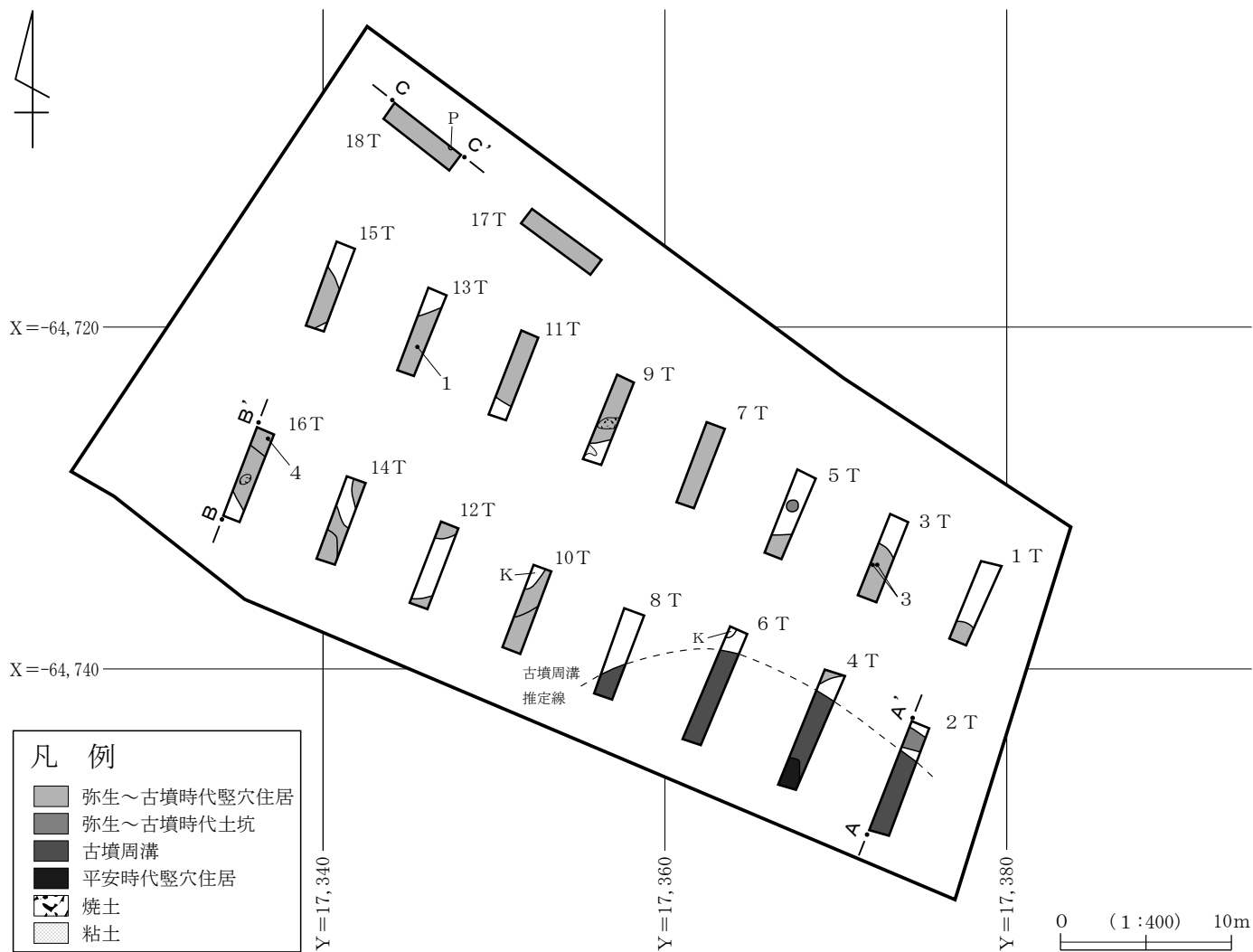
出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代前期の土器が大部分を占める。1・2は甕の口縁部である。1は内面ナデ調整で、頸部に多段の輪積み痕跡、段の境目に指頭圧痕を残す。口唇部は刻みを施す。2は内外面ナデ調整で、口唇部は縄文原体押圧による刻みを施す。3は壺の体部から底部である。内外面ミガキ調整である。4は壺の体部である。内面はナデ調整である。平行沈線による複合山形文間にLR-LR、もしくはLR-RLの2段の単節縄文が充填される。文様部分以外は赤彩を施す。5は浅鉢の口縁部である。折返し口縁であり、下端には縄文原体押圧による刻みを施す。口唇部は単節RL、折返し口縁部は上から単節LR、S字結節、単節RL、体部は上から単節LR、RL、S字結節、単節LR、RLを施す。内面はミガキ調整で、赤彩を施す。6は壺の頸部である。上から単節LR、RL、LR、LRを施す。内面上部は赤彩を施す。1～6はいずれも君津地方における弥生時代後期～古墳時代前期土器の土器編年Ⅳ～Ⅴ期の弥生時代後期後葉～末葉のもものと推測される。7は須恵器坏身である。形状からTK43～209型式のもものと推測する。



第 11 図 大塚台遺跡・雲塚台古墳群周辺遺跡位置図（1：25,000）

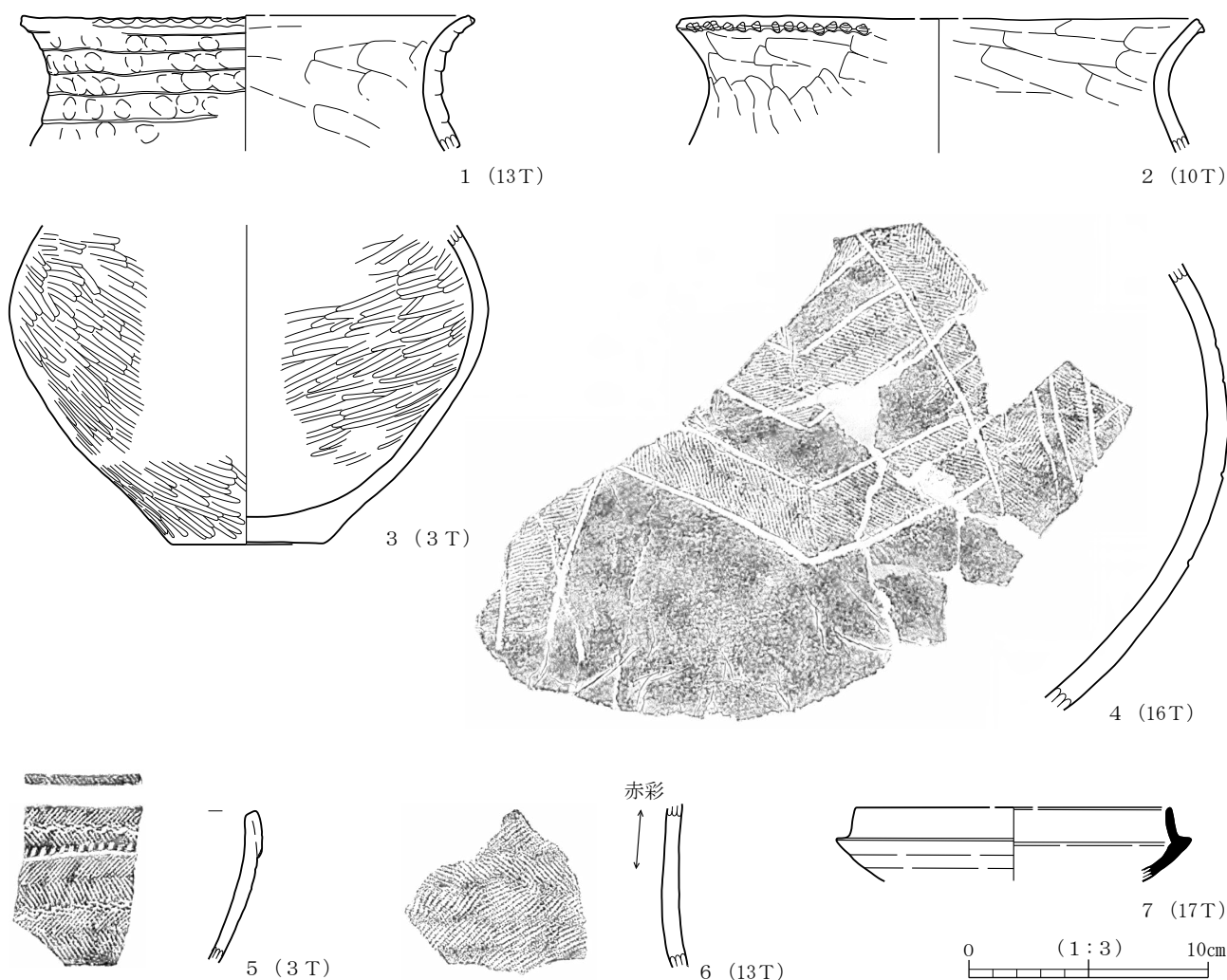


第 12 図 大塚台遺跡・雲塚台古墳群調査区位置図（1：4,000）



I	暗褐色土	しまり：弱い	粘性：弱い	ローム粒子、焼土多量含む（耕作土）	3	暗褐色土	しまり：やや弱い	粘性：やや強い	焼土多量、ローム粒子少量含む（竪穴住居）
II a	暗褐色土	しまり：やや強い	粘性：弱い	ローム粒子、焼土多量、炭少量含む（耕作土）	4	黒褐色土	しまり：普通	粘性：強い	ローム粒子多量、焼土少量含む（竪穴住居）
II b	黒褐色土	しまり：やや弱い	粘性：やや強い	ローム粒子少量含む（耕作土）	5	暗褐色土	しまり：普通	粘性：強い	ローム粒子、黒褐色土、炭多量含む（竪穴住居）
II c	黒褐色土	しまり：やや弱い	粘性：やや弱い	ローム粒子多量、暗褐色土少量含む（耕作土）	6	暗褐色土	しまり：やや弱い	粘性：強い	ローム粒子多量含む（竪穴住居）
III	黄褐色土	（ソフトローム層）			7	黒褐色土	しまり：弱い	粘性：強い	ローム粒子、黒褐色土、焼土少量含む（竪穴住居）
1	暗褐色土	しまり：やや弱い	粘性：やや強い	ローム粒子多量含む（古墳周溝）	8	黒色土	しまり：弱い	粘性：やや弱い	（竪穴住居）
2	暗褐色土	しまり：やや強い	粘性：やや強い	ローム粒子少量含む（土坑）	9	褐色土	しまり：やや弱い	粘性：やや強い	ローム粒子多量、炭少量含む（竪穴住居）

第13図 大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）遺構確認状況図、土層断面図



第14図 大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）出土遺物実測図

第3表 大塚台遺跡（4）・雲塚台古墳群（2）出土遺物重量表

	単位：g																		（ ）：点数
トレンチ番号	1 T	2 T	3 T	4 T	5 T	6 T	7 T	8 T	9 T	10 T	11 T	12 T	13 T	14 T	15 T	16 T	17 T	18 T	種別合計
弥生時代後期～古墳時代前期土器	110.36	345.91	60.88	55.30	25.46	936.84	53.11	105.16	306.66	333.57	129.72	60.00	298.74	22.78	102.72	345.84	672.68	263.28	4,229.01
古墳時代須恵器	0.00	4.85	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	11.35	9.84	26.04
礎	0.00	98.06 (7)	24.09 (2)	0.00	54.14 (2)	12.76 (2)	0.00	10.94 (1)	0.00	283.62 (4)	4.69 (1)	43.51 (5)	0.00	9.04 (1)	21.30 (1)	90.62 (7)	50.13 (1)	257.45 (8)	960.35 (42)
黒曜石	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.93 (1)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.93 (1)

3. まとめ

本調査区においても、過去調査区と同様に弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴住居が密に検出された。竪穴住居に伴う遺物は少ないが、出土遺物量や楕円形の形状のものが多くことから、弥生時代後期から古墳時代前期のものが大半を占めるものと推測する。また、過去調査において墳丘盛土の一部調査が行われていた雲塚台古墳群第2号墳は初めて周溝が検出され、周溝幅5m以上の円墳であることが明らかになった。

参考文献

- 土器B研究班 1996 「君津地方における弥生後期～古墳前期の土器編年」『研究紀要Ⅶ』財団法人君津郡市文化財センター
- 土屋治雄 1997 『袖ヶ浦市大塚台遺跡』財団法人千葉県文化財センター
- 諸墨知義他 1998 『平成9年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』財団法人君津郡市文化財センター
- 稲葉理恵 2006 『大塚台遺跡（3）』袖ヶ浦市教育委員会

写真図版



1. 調査区全景 (北東→)



2. 1 T (東→)



3. 1 T セクション (南→)



4. 2 T (西→)



5. 5 T (西→)



6. 6 T (東→)



7. 9 T (南東→)



8. 作業風景 (西→)



1. 調査区全景 (南→)



2. 6 T (東→)



3. 9 T (東→)



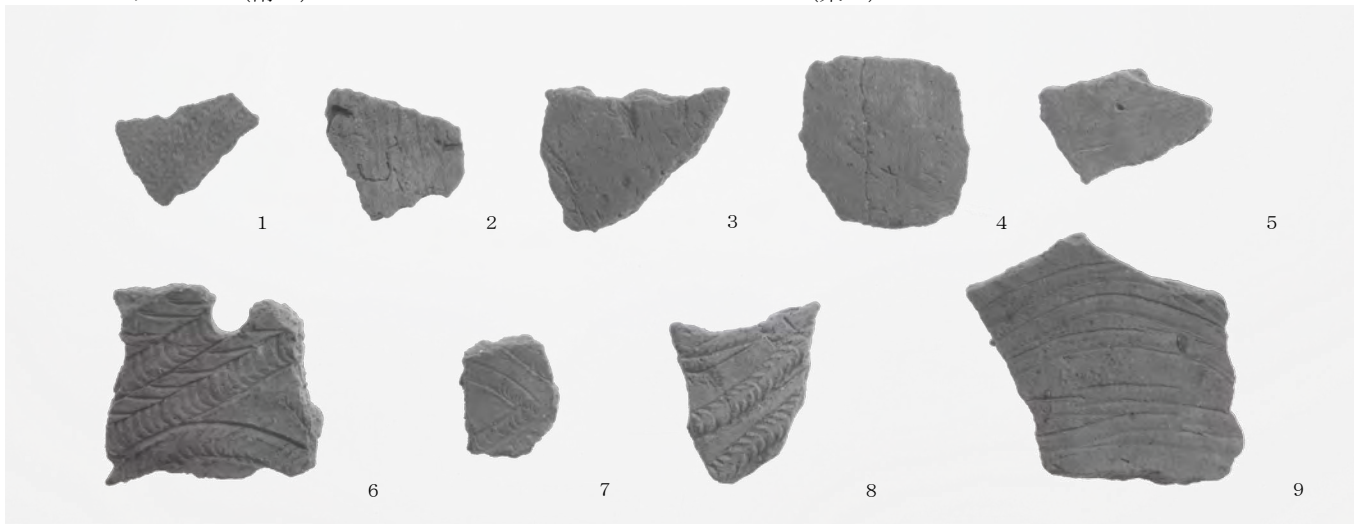
4. 28 T セクション (南→)



5. 30 T セクション (南→)



6. 48 T (東→)



7. 出土遺物



1. 調査区全景（東→）



2. 1 T（南→）



3. 3 T（南→）



4. 4 T（西→）



5. 6 T（西→）



6. 6 Tセクション（北東→）



7. 7 T（西→）



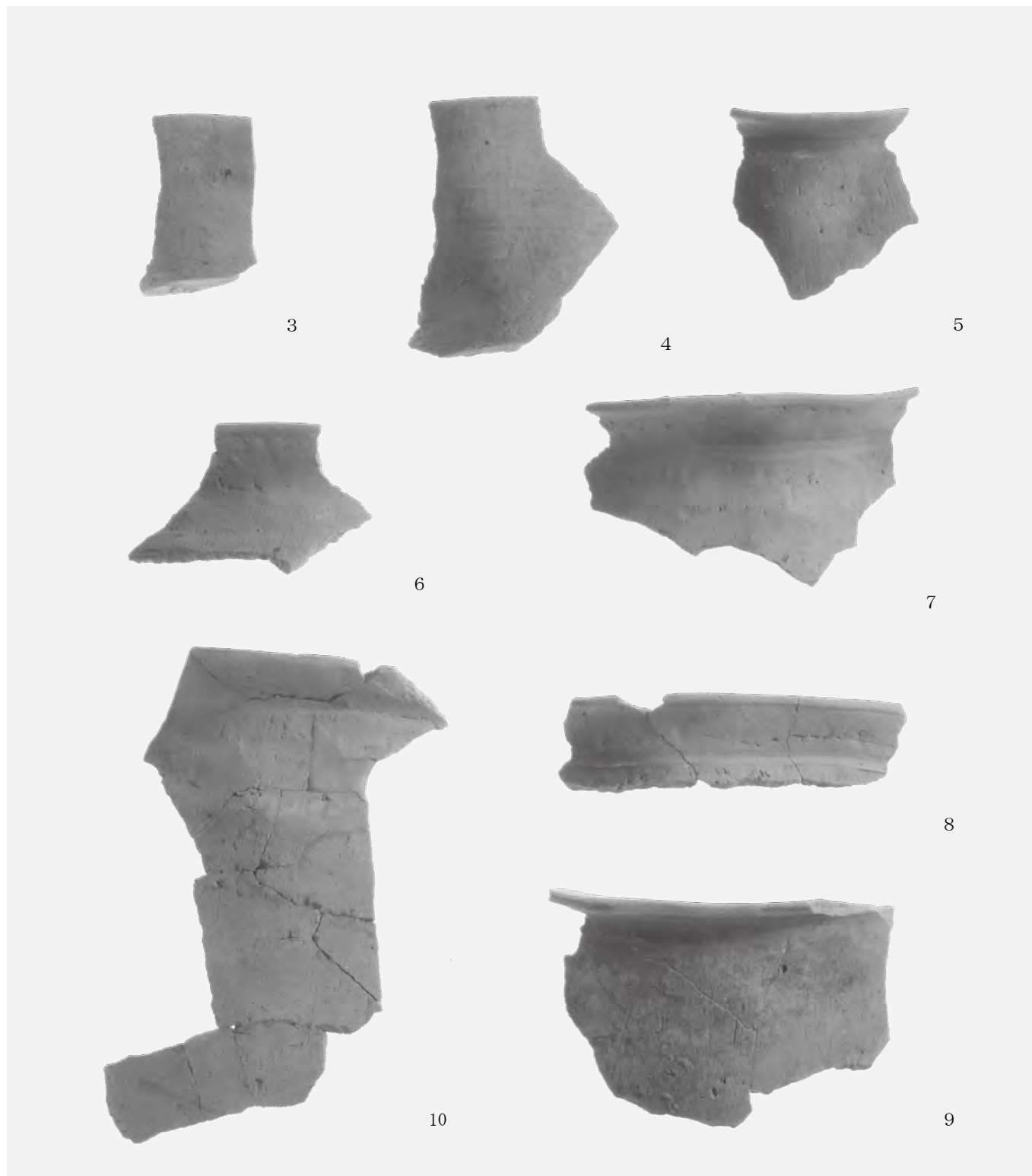
8. 作業風景（東→）



1. 出土遺物①



2. 出土遺物②



7. 出土遺物③



1. 調査区全景（北西→）



2. 2 T（北→）



3. 3 T（北→）



4. 3 T 遺物出土状況（南東→）



5. 4 T（北→）



6. 5 T（北→）



7. 6 T（北→）



8. 9 T（北→）



1. 10 T（北→）



2. 11 T（北→）



3. 13 T（北→）



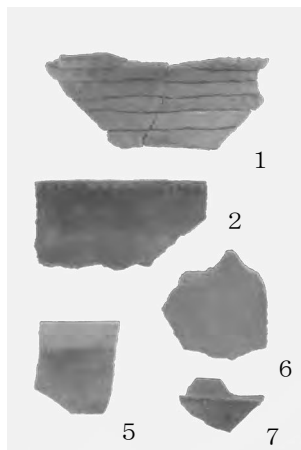
4. 14 T（北→）



5. 15 T（北→）



6. 16 T（北→）



7. 出土遺物①



8. 出土遺物②



9. 出土遺物③

報告書抄録

ふりがな	れいわがんねんど そでがうらしないいせきはつつちょうさほうこくしよ							
書名	令和元年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書							
編著者名	助川 諒（編） 大河原 務							
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会							
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1 TEL 0438-62-2111							
発行年月日	2020 年 3 月 27 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
よこたごう 横田郷遺跡	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 よこたあざえのきど 横田字榎戸 2, 596 番地他	12229	SG092	35° 22′ 59″	140° 1′ 2″	20190520 ～ 20190529	98／ 1, 021	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
横田郷遺跡	包蔵地 集落跡	弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	なし		古墳時代土師器 ・須恵器、中世 陶器、近世陶磁器	調査区の地形は緩やかに西に向かって傾斜している。		
要 約	青灰色シルト層から古墳時代の土師器・須恵器が出土した。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かんざわ 寒沢遺跡 第 9 次調査	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 かんのうあざかんざわ 神納字寒沢 4, 182 番地 10 他	12229	SG061	35° 26′ 20″	139° 59′ 15″	20190611 ～ 20190626	482／ 5, 072. 91	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
寒沢遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代	なし		縄文土器	攪乱中から焼土の塊が検出されたため第 7・8 次調査で確認された炉穴が当調査区でも広がっていた可能性がある。		
要約	調査区からは縄文時代早・前期の土器が出土したが、広範囲にわたり後世の攪乱を受けていた。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
てらのだい 寺野台遺跡 第 8 次調査	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 かわはらいあざてらち 川原井字寺地629 番地 2 の 4 他	12229	SG098	35° 24′ 42″	140° 4′ 28″	20190716 ～ 20190726	60／ 594	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
寺野台遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	奈良・平安時代竪穴住居 6 軒・掘立柱建物 1 棟・土坑 3 基・溝状遺構 1 条		奈良・平安時代土師器	調査区の西側に遺構が集中している。		
要 約	調査区内から奈良・平安時代の土師器が多量に検出された。							

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
			市町村	遺跡番号					
おおつかだい 大塚台遺跡 第4次調査・ くもつかだい 雲塚台古墳群 第2次調査	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 いわいあざにしおおつかだい 岩井字西大塚台 1,183 番地1の2 他		12229	SG076 SG130	35° 24' 58”	140° 1' 28”	20200116 ～ 20200204	110.3／ 1,222.9	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
大塚台遺跡・ 雲塚台古墳群	包蔵地 古墳	弥生時代 古墳時代 平安時代	弥生時代～古墳時代 竪穴住居 21 軒・土坑 2 基、 古墳時代古墳周溝 1 条、 平安時代竪穴住居 1 軒		弥生土器、古墳時代 土師器・須恵器		調査区全域においてソフトローム 漸移層まで後世の削平の影響を受 けていた。		
要約	調査区全域において、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居が密に存在することが明らかになった。また、調査区南東部に位置する雲塚台古墳群第2号墳の周溝が検出され、その周溝幅は5m以上を測ることが判明した。								

2020 年 3 月 23 日 印刷

2020 年 3 月 27 日 発行

令和元年度
千葉県
袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

横田郷遺跡 寒沢遺跡第9次調査 寺野台遺跡第8次調査 大塚台遺跡第4次調査・雲塚台古墳群第2次調査

発行 袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1
電話 0438-62-2111

印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社
千葉県木更津市潮見4丁目14番4号
電話 0438-36-5361